

大津市長殿

2003年度版  
環境管理活動報告書



(株)近畿分析センター

(対象期間：2002年4月1日～2003年3月31日)

## 目 次

1 . 近畿分析センターの概要	1 頁
2 . 環境方針	2 頁
3 . 環境に関する認証及び認定	3 頁
4 . 活動の考え方	4 頁
5 . 環境目的・目標と達成状況	5 頁
6 . 環境測定結果	7 頁
7 . 教育・訓練活動	9 頁
8 . 緊急事態想定訓練・テスト	1 0 頁
9 . 地域貢献活動	1 1 頁
1 0 . 連絡先	1 2 頁

## 1. 近畿分析センターの概要

### ごあいさつ

株式会社近畿分析センターは、NEC関西の全額出資による関連事業として、昭和47年(1972年)2月に設立いたしました。

弊社は、NEC関西の開発研究部門で長年にわたり蓄積された化学分析・機器分析の技術と技術調査の情報で広く社会に貢献したいという念願で設立され、以来環境分析とエレクトロニクス関連の材料分析を主体として弛まぬ技術の研鑽を重ね今日に至っております。

ご高承の通り環境問題は人と地球の環境保全として世界的に注目され、環境の汚染・汚濁をはじめ新たな有害物の分析、又労働衛生面の環境測定にかかわる測定等、益々多様化するニーズに対しご満足いただける情報提供に取り組んでおります。

一方、技術革新の急速に進む今日、ハイテクノロジーの研究開発、又品質管理・改善等を効率的に改善するための材料分析・評価による技術支援活動の必要性は益々高まっております。

弊社は材料分析等の機器分析技術と技術情報の調査等につきまして、長年蓄積されたノウハウを基に、最新の先端技術を駆使し、問題解決の価値あるデータとしてご期待に添えるようご協力いたしております。さらに平成15年度よりISOコンサルティング部を新設し、総合的な環境ソリューションの提供を目指しております。

今後とも、高度な分析技術に積極的に挑戦し、機密を厳守して信頼ある情報を迅速にご提供することをモットーに誠意をもってお応えする所存でございます。

一層のご活用、ご支援を心からお願い申し上げます。

代表取締役 横山成紀

---

名 称 : 株式会社 近畿分析センター

---

所 在 地 : 〒520-0833 滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号

TEL 077-534-0651、 FAX 077-533-1604

---

設 立 : 1972年2月(関西日本電気株式会社より分離独立)

---

業 務 内 容 :

#### 1. 分析事業

環境計量証明(濃度、騒音・振動、特定濃度(DXN))

作業環境測定

建築物飲料水水質検査

土壌汚染状況調査

各種製品・材料の分析評価

#### 2. コンサルティング事業

環境マネジメントシステムに係わるコンサルティング

品質マネジメントシステムに係わるコンサルティング

---

## 2 . 環境方針（環境理念と6つの行動指針で構成）

### 【環境理念】

自然のいとなみを尊重した環境マネジメントシステムを展開し、環境にやさしい事業活動と地球環境保全のための信頼される技術とサービスの提供を行います。

### 【行動指針】

- ( 1 ) 環境動向をすばやく入手し、環境に与える影響を考慮した分析技術の開発に努め、価値ある分析とサービスの提供をする。
- ( 2 ) 環境マネジメントシステムに基づき、事業活動における省資源、省エネルギー、廃棄物削減等の環境保全活動を展開し、継続的改善と環境汚染の未然防止を図る。
- ( 3 ) 環境関連法令、条例、諸規制及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し自主管理基準を設定する。
- ( 4 ) 環境目的、目標を設定しそれらを達成するための活動計画を策定し実行し定期的な見直しを行う。
- ( 5 ) 環境方針を文書化し、全員に周知徹底すると共に環境教育を計画的に実施し、意識向上を図り環境マネジメント活動を展開する。
- ( 6 ) 環境方針の積極的な公開と環境保全活動への提案を通じて、社会に貢献する。

### 3 . 環境に関する認証・認定

環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を1998年7月に取得いたしました。



**ダイオキシン類環境測定の高品質システムに関する認定等**

平成14・15年度の環境省受注資格審査に合格(2002年4月)  
 (一般環境大気、公共用水域水質、地下水質、土壌、底質、水生生物、排出ガス、排水、ばいじん、焼却灰その他の燃え殻、食事試料、作業環境)

特定計量証明事業の認定取得(2002年7月)  
 (認定区分:大気中のダイオキシン類、水又は土壌中のダイオキシン類)



#### 4 . 活動の考え方

地球環境保全、循環型社会の実現に向け、良き企業市民として、また分析事業者として、当社が果たすべき二つの社会的責任を全うすべく、環境管理活動を展開しています。

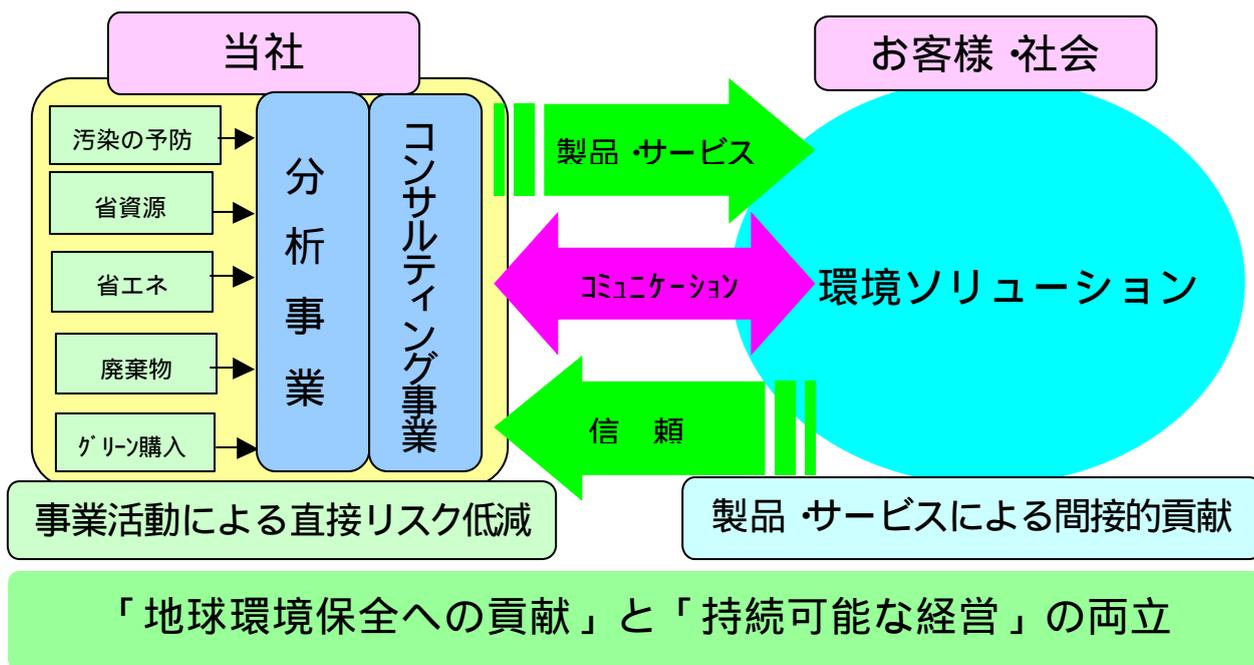


図1 当社の環境管理活動のイメージ

## 5. 環境目的・目標（抜粋）

### （1）2002年度の達成状況

環境目的の項目	管理項目	2002年度目標値 (環境目標)	2002年度実績	評価	実施内容と成果等
<b>事業活動による直接リスク低減活動</b>					
環境汚染の防止	顕在する不適合の件数	0件/年 (累計)	0件/年 (累計)	A	EMSの適切な運用により、顕在する不適合 :ゼロを継続できました。
省エネルギー	省エネ施策実施件数	1件/年 (累計)	1件/年 (累計)	A	旧型エアコンシステムを省エネ型空調システムへ転換しました。
	二酸化炭素排出量 (売上原単位)	00年度比 103%以下 (累計)	00年度比 117% (累計)	B	フロア拡張や市場広域化等の事業展開による増加要因と、予想を超える分析価格の低下により、目標未達となりました。
省資源	ペーパーレス化実施件数	2件/年 (累計)	2件/年 (累計)	A	1)仕様書社内LAN閲覧システム構築 2)電子報告書を提案 納品により、紙使用量の抑制が図れました。
廃棄物削減	削減施策実施件数	1件/年 (累計)	1件/年 (累計)	A	試薬メーカーとのコラボレーションにより器具洗浄薬品の再資源化(有価物化)を実現しました。
	産業廃棄物処理委託量 (売上原単位)	90年度比 75%以下 (累計)	90年度比 69%以下 (累計)	A	上記削減施策に加え、業務内容の変化による減少もあり、大幅に目標を超過達成しました。
<b>製品・サービスによる間接的貢献を強化する活動</b>					
新規分析評価技術の拡充	導入件数	2件/年 (累計)	2件/年 (累計)	A	1)土壌汚染対策法指定調査機関としての調査体制を確立し、社会的ニーズに対応しました。 2)LCMSによるBaP分析法導入
品質システムの強化	システム適用分野数	1分野/年 (累計)	1分野/年 (累計)	A	ISO/EC17025に対応するダイオキシン類に係る品質システムを構築し、特定計量証明事業者(MLAP)の認定を取得しました。
業務効率の改善	改善件数	2件/年 (累計)	2件/年 (累計)	A	1)インターネット活用の営業ツールにより訪問 郵送等の営業コストの削減が図れました。 2)騒音振動データ解析の電子化により作業効率とデータ品質の向上が図れました。

( 2 ) 2 0 0 3 年度の環境マネジメントプログラム

環境目的 の項目	管理項目	2003年度 目標値 (環境目標)	2003年度の施策
<b>事業活動による直接リスク低減活動</b>			
環境汚染の 防止	顕在する 不適合の 件数	0件/年 〔累計〕	EMSの適切な運用により、顕在する不適合 :ゼロを継続する。
省エネルギー	日常管理	-	「二酸化炭素排出量及びその内訳」を監視しながら、きめ細かな日常管理活動を展開していく
省資源	ペーパーレス化 実施件数	2件/年 〔累計〕	仕様書の社内LAN閲覧システム拡大 社内報告書の電子閲覧システム構築
	日常管理	-	紙購入量及びその内訳」を監視しながら、きめ細かな日常管理活動を展開していく。
廃棄物削減	削減施策 実施件数	1件/年 〔累計〕	D X N類分析使用済み溶剤の再資源化 (有価物化)
	日常管理	-	産業廃棄物、一般廃棄物排出量及びその内訳」を監視しながら、きめ細かな日常管理活動を展開していく。
<b>製品・サービスによる間接的貢献を強化する活動</b>			
新規分析評価 技術の拡充	導入件数	2件/年 〔累計〕	R o H S対応分析技術の拡充 土壌汚染状況調査技術の拡充
品質システム の強化	認定等取得 件数	3件/年 〔累計〕	計量証明事業規定見直しとロゴマーク運用 MLAPサートAINS 平成 16 年度環境省受注資格審査
	システム適用拡 大分野数	2分野/年 〔累計〕	苦情処理システムの統合 設備管理システムの統合
	SOP整備 計画完遂率	100% 〔累計〕	品質システムに基づくSOP体系を2005年度末までに構築するための整備計画を策定し、実行する。
業務効率の 改善	改善件数	2件/年 〔累計〕	FB - T E M Iによるナノ解析技術強化と効率化 土壌溶出・含有量調査方法の効率化
	ムダ取り件数	24件/年 〔累計〕	ムダ取り活動の一層の活性化により、草の根運動的な改善を積み重ねていく

## 6. 環境測定結果

### (1) 放流水の測定結果(2002年度)

測定項目	測定頻度	規制基準値	自主管理基準値	平均測定値	評価	
有害物質	カドミウム及びその化合物	1回/月	0.01	0.002	<0.001	
	シアン化合物	1回/月	0.1	0.02	<0.01	
	有機燐化合物	1回/年	不検出(<0.1)	不検出(<0.1)	<0.1	
	鉛及びその化合物	1回/月	0.1	0.02	<0.01	
	六価クロム化合物	2回/年	0.05	0.02	<0.01	
	砒素及びその化合物	1回/月	0.05	0.01	<0.01	
	水銀及びその化合物	1回/月	0.005	0.0010	<0.0005	
	アルキル水銀化合物	1回/年	不検出(<0.0005)	不検出(<0.0005)	<0.0005	
	ポリ塩化ビフェニル	1回/年	0.003	0.0010	<0.0005	
	トリクロロエチレン	1回/月	0.3	0.002	<0.001	
	テトラクロロエチレン	1回/月	0.1	0.0010	<0.0005	
	四塩化炭素	1回/3月	0.02	0.0010	<0.0005	
	ジクロロメタン	1回/3月	0.2	0.04	<0.02	
	1,2-ジクロロエタン	1回/3月	0.04	0.008	<0.004	
	1,1,1-トリクロロエタン	1回/月	3	0.002	<0.001	
	1,1,2-トリクロロエタン	1回/3月	0.06	0.012	<0.006	
	1,1-ジクロロエチレン	1回/3月	0.2	0.04	<0.02	
	1,2-ジクロロエチレン	1回/3月	0.4	0.08	<0.04	
	1,3-ジクロロプロパン	1回/3月	0.02	0.004	<0.002	
	チウラム	1回/年	0.06	0.012	<0.006	
	シマジン	1回/年	0.03	0.006	<0.003	
	チオベンカルブ	1回/年	0.2	0.04	<0.02	
	ベンゼン	1回/3月	0.1	0.02	<0.01	
	セレン	1回/年	0.1	0.02	<0.01	
有害物質以外	水素イオン濃度	1回/月	6.0~8.5	6.0~8.5	7.3	
	生物化学的酸素要求量	1回/月	《90》	19	5.4	
	化学的酸素要求量	1回/月	《90》	8.1	3.6	
	浮遊物質	2回/年	《90》	2.0	<1.0	
	ルルハチン抽出物質	2回/年	《5》	1.0	<0.5	
	フェノール類含有量	2回/年	《1》	0.02	<0.01	
	銅含有量	2回/年	《1》	0.10	<0.05	
	亜鉛含有量	2回/年	《1》	0.10	<0.05	
	溶解性鉄含有量	2回/年	《10》	0.10	<0.05	
	溶解性マンガ含有量	2回/年	《10》	0.10	<0.05	
	クロム含有量	2回/年	《0.1》	0.02	<0.01	
	フッ素含有量	2回/年	《8》	<0.5	<0.5	
	大腸菌群数	2回/年	《3000》	100	0	
	ホウ素含有量	2回/年	《2》	0.2	<0.1	
	アンモ含有量	2回/年	《0.05》	0.02	<0.01	
窒素含有量(総和法)	1回/月	《60》	1.9	0.86		
燐含有量	1回/月	《8》	0.14	0.08		

注1) 単位は大腸菌群数が個/cm<sup>3</sup>、その他がmg/Lである。

注2) 規制基準値は、滋賀県公害防止条例施行規則(昭和48年、滋賀県規則第10号)

別表第6に定める排水基準である。また《 》の測定項目は、当社の規制対象外である。

注3) 評価欄の 印は平均測定結果が自主管理基準値以下であることを示す。

( 2 ) 排ガス測定結果 ( 2 0 0 2 年度 )

測定施設	測定項目	測定頻度	単位	自主管理 基準値	平均 測定値	評価
廃ガス洗浄装置 No. 1	硫酸	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	5	<1	
	硝酸	2回/年	cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N	50	<1	
	塩化水素	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	5	<1	
	弗素及びその化合物	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	1	<0.1	
廃ガス洗浄装置 No. 2	硫酸	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	5	<1	
廃ガス洗浄装置 No. 3	硫酸	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	5	<1	
	硝酸	2回/年	cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N	50	<1	
	塩化水素	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	5	<1	
	弗素及びその化合物	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	1	<0.1	
廃ガス洗浄装置 No. 4	硫酸	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	5	<1	
	硝酸	2回/年	cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N	50	<1	
	塩化水素	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	5	<1	
	弗素及びその化合物	2回/年	mg/m <sup>3</sup> N	1	<0.1	
有機ドラフト No. 1	ジクロロメタン	2回/年	cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N	40	<1	
	臭気指数	2回/年	-	30	13	
有機ドラフト No. 2	ジクロロメタン	2回/年	cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N	40	<1	
	臭気指数	2回/年	-	30	<10	
有機ドラフト No. 3	トルエン	2回/年	cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N	80	<1	
	ジクロロメタン	2回/年	cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N	40	<1	
	臭気指数	2回/年	-	30	<10	
有機ドラフト No. 4	トルエン	2回/年	cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N	80	<1	
	ジクロロメタン	2回/年	cm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> N	40	<1	
	臭気指数	2回/年	-	30	<10	

注 1) いずれの施設とも規制対象設備ではないため規制基準は適用されない。

注 2) 評価欄の 印は平均測定結果が自主管理基準値以下であることを示す。

## 7 . 教育・訓練活動

従業員一人ひとりの環境管理に関する自覚と、必要な知識と技能の修得のため、環境マネジメントシステムに基づく教育・訓練活動を積極的に展開しています。

### 環境マネジメント教育・訓練活動の種類と目的

教育・訓練の種類	目 的
環境マネジメントシステム教育	環境方針・目的目標・ISO14001の要求事項に適合することの重要性を自覚
著しい環境影響の可能性のある作業の要員への教育・訓練	日常業務を行うために必要な薬品取扱、排水処理、排ガス処理、廃棄物処理に関する遵守事項の徹底
著しい環境影響の原因となりうる作業の要員への教育・訓練	薬品管理、排水処理施設運転、排ガス処理施設運転、廃棄物管理の担当者および責任者への必要な知識と技能の修得
社外講習会・セミナー	環境問題に関する幅広い見識の修得と人的交流の推進
環境関連資格の取得推進	法的に必要な資格者養成のみでなく、当社のお客様に対し環境に関する適切な支援ができる人材を養成

## 8 . 緊急事態想定訓練・テスト

環境影響評価に基づき特定した環境緊急事態を想定し、対応訓練及びテストを定期的の実施して、リスク削減に努めています。



### 【想定】

産業廃棄物（廃酸）流出

### 【対応手順】

初期対応（流出阻止）



連絡（連絡ルートによる）



回収作業



復旧確認

産業廃棄物流出を想定した対応訓練・テストの状況



### 【想定】

放流水 pH異常

### 【対応手順】

初期対応（放流水停止）



連絡（連絡ルートによる）



原因特定



対策（原因除去）



pH調整

放流水 pH異常を想定した対応訓練・テストの状況

## 9 . 地域貢献活動

環境ボランティア活動を自主企画・実施するとともに行政や地域が主催する環境ボランティア活動にも積極的に参加しています。

また、事業所前を流れる盛越川の水質を自主的にモニタリングしています。



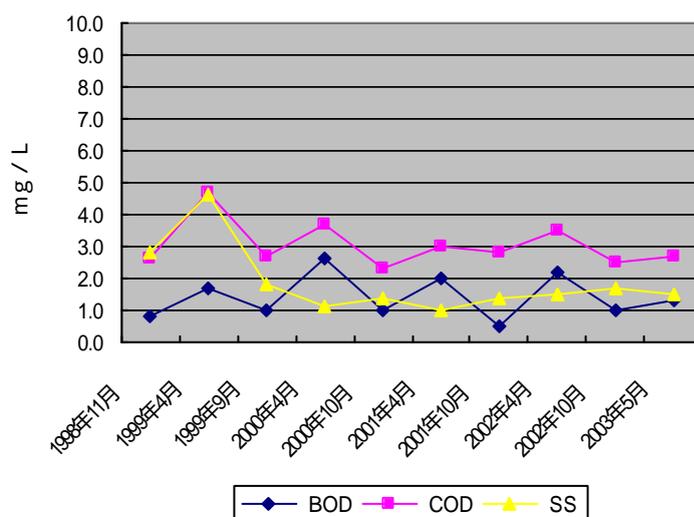
盛越川清掃（自主企画）



琵琶湖ヨシ刈り（滋賀県主催）



盛越川水質モニタリング（採水）



盛越川水質データの推移

## 10. 連絡先

### 株式会社 近畿分析センター

担当部門：環境管理課

〒520-0833

滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号

TEL 077-534-0651

FAX 077-533-1604

ホームページアドレス <http://www.kbc-em.co.jp>